

情報・システム研究機構 経営協議会（令和5年度第2回）議事要旨

日 時： 令和5年10月23日（月）15：30～17：45

形 式： 情報・システム研究機構会議室及びWeb会議

出席者：東信彦委員、安宅和人委員、大野英男委員、川添雄彦委員、國井秀子委員、
五神真委員、佐々木裕之委員、高橋真理子委員、竹村彰通委員、徳田英幸委員、
永田恭介委員、森本典繁委員、大和裕幸委員
喜連川優委員（議長）、椿広計委員、中村卓司委員、小酒井克也委員、
中野美由紀委員、野木義史委員、黒橋禎夫委員、花岡文雄委員、仙波秀志委員、
中川健朗委員、伏見信也委員

オブザーバー：村上雅人監事、門田隆太郎監事

陪席者：本部事務局・研究所事務担当者

○議事に先立ち、議長より本会の成立要件の確認及び新たに着任した委員等の紹介があった。

○議長より、令和5年度第1回議事要旨の確認が行われた。

議 題：

【審議事項】

（1）情報・システム研究機構長選考・監察会議委員の選出

議長及び小酒井委員より資料1及び机上配布資料に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり決定した。

（2）情報・システム研究機構組織運営規則の一部改正について

小酒井委員より資料2-1～2-4に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり了承され、役員会にて審議することとした。

（意見概要）

○設置されるセンターについて、より多様性のあるメンバー構成となるよう検討いただきたい。

→ご意見を反映できるようにしていきたい。

○センター設置にかかる経費の財源は何か。

→本センターは、機構に既に設置されているデータサイエンス共同利用基盤施設の枠組みにおいて運営するものであり、運営費交付金が財源となる。

○人工知能と法律の関係は海外を含めて関心が高くなっているが、海外との連携にも着目してもらいたい。

→人工知能と法律に関する研究は、NII で継続的に行ってきたもの。英仏と連携を取り進めており、どこかの段階で紹介させていただくかもしれない。

○資料における Law of AI という記載について、AI 自体の法律を検討するとも読めるがそのような新しい分野にチャレンジするという主旨か。

→人工知能技術を使い、複雑になっている法学をデジタルに裏付けされた方法論により整理するという趣旨である。

○海外には、ヒューマニティとテクノロジーの学際的な研究に取り組む機関があるが、日本にはあまりないので、法学だけでなく機構がリードを取って推進していただきたい。

→ヒューマニティまで広げると論点が広がってしまうので、まずは法学について堅実に進めていきたいと考えている。

(3) 令和5年人事院勧告に伴う給与関係規程の一部改正について

小酒井委員より資料3-1～3-2に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり了承され、過半数代表者に意見照会することとした。

(4) 情報・システム研究機構短時間雇用職員就業規則の一部改正について

小酒井委員より資料4-1～4-2に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり了承され、過半数代表者に意見照会することとした。

(5) 令和5年度業務達成基準の適用について

小酒井委員より資料5に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり了承され、役員会にて審議することとした。

【報告事項】

(1) 令和6年度概算要求状況の伝達について

小酒井委員より資料6-1～6-4に基づき、令和6年度概算要求状況の伝達について報告された。

(意見概要)

○NII の SINET は学術だけでなく、社会インフラとしての機能もあるので、SINET 相当の部分をフロンティア事業から外に出ししつつ別の目的でセキュアにしながら、フロンティアはフロンティアとしてやるべきものの財源にしていくといった連携が必要なのではな

いか。

→フロンティア事業との関係においては、SINET が継続的に保障される構造となっているか丁寧に見ていながら整理したい。SINET は初等中等教育への展開などもあり一步一步進めているところ。

(2) 令和4事業年度財務レポート

小酒井委員より資料7に基づき、令和4事業年度財務レポートについて報告された。

○ ROIS の新たな挑戦シリーズ 第2弾 (国立遺伝学研究所)

花岡国立遺伝学研究所長より資料に基づき、研究所における取組み及び新たな挑戦等について発表された。

(意見概要)

○教員数がピーク時に比べて減少しているが何か事情があるのか。

→運営費交付金の減少によるところが大きい。

○BSI に関し、他にも国内でデータベースを持っている機関があるが、そうした機関との連携はどのようになっているか。

→連携に向けて関係機関と個別に議論を進めているところ。

○情報研では大規模言語モデルの検討が進んでいると思うが、より効率的に研究を進めるための融合研究などの検討は ROIS 内で進められているか。

→まさに始めようとしており、これから検討を進めるという状況。

○運営費交付金の減少に関連して、特許のライセンス等による収入源確保や、バイオ系のスタートアップ企業等にリソースを提供し対価を受けるといった枠組みを検討されてはいかがか。

→従前から所内での検討は進めているが、マンパワーの不足もあり実現には至っていない。

○マンパワーの不足について、学生指導や研究を全員で進めるといったご説明もあったが、こういったところを一部特化すれば良いのではないか。

→従前からの遺伝研のストラクチャーも持ちながら、新しい仕組みも取り入れていければと考える。

○NTTにおいてもゲノム研究を行っているが、ビジネスの観点から目的指向型の研究が中心。遺伝研でもそういった視点で研究を推進できれば産業界との連携もさらに増えていくのではないかと。

→従前から知的探求心に基づく研究が多く、目的指向型の視点が少ないのは確かである。ROIS 自体にそういった機動部隊を導入していくことも検討したい。

○データベースについて、最近では日本より中国がデータを出している状況と感じているが、今後の方向性についてご教示いただきたい。

→中国はオブザーバー的な位置づけとして、米国や欧州とは連携を進めており、将来的にも引き続き米国、欧州、アジアという枠組みで推進していきたいと考えている。

○今年度新たに設置されたフェノタイプ研究センターについて、名称から何を研究しているのかわかりにくいので、情報発信の観点で検討いただきたい。

→名称についてはかなり検討を重ねたところだが、今後は優れた研究成果を生み出すことで認知度を高めていきたいと考えている。

○世界でもライフサイエンスと情報科学の融合研究において新しい動きが見られるが、日本においても ROIS が推進していくことを期待している。

→喜連川機構長のもと、推進していきたいと考えている。

(次回の経営協議会の日程について)

・次回の経営協議会は、令和6年1月24日(水) 10:00から開催の予定。

以上

《配付資料》

- ・ 前回議事要旨
- ・【資料 1】 情報・システム研究機構長選考・監察会議規則
- ・【資料2-1】 情報・システム研究機構組織運営規則の一部改正について
- ・【資料2-2】 データサイエンス共同利用基盤施設人工知能法学研究支援センターの設置について
- ・【資料2-3】 データサイエンス共同利用基盤施設 (DS 施設) の組織改編「人工知能法学研究支援センター」の設置計画
- ・【資料2-4】 情報・システム研究機構組織運営規則 (新旧対照表)
- ・【資料3-1】 令和5年人事院勧告に伴う給与関係規程の一部改正について
- ・【資料3-2】 情報・システム研究機構役員給与規程等 (新旧対照表)
- ・【資料4-1】 情報・システム研究機構短時間雇用職員就業規則の一部改正について

- ・【資料4-2】情報・システム研究機構短時間雇用職員就業規則（新旧対照表）
- ・【資料 5】令和5年度業務達成基準の適用について（案）
- ・【資料6-1】令和5年度・令和6年度運営費交付金比較表
- ・【資料6-2】令和6年度概算要求の主な事項（文科省からの伝達）
- ・【資料6-3】令和6年度概算要求事項（ROIS→文科省）
- ・【資料6-4】令和6年度概算要求のポイント
- ・【資料 7】財務レポート 第19期令和4事業年度